

認知言語学： 言語相対性仮説 1



サンフランシスコ州立大学／国立国語研究所
南 雅彦

助数詞

❖ For counting, Japanese uses classifiers (or sometimes called counters):

- ❖ 枚: 薄くて平らなものを数える助数詞
(紙・毛布・タオル・皿・切符・紙幣・切手)
- ❖ 人: 人を数える助数詞

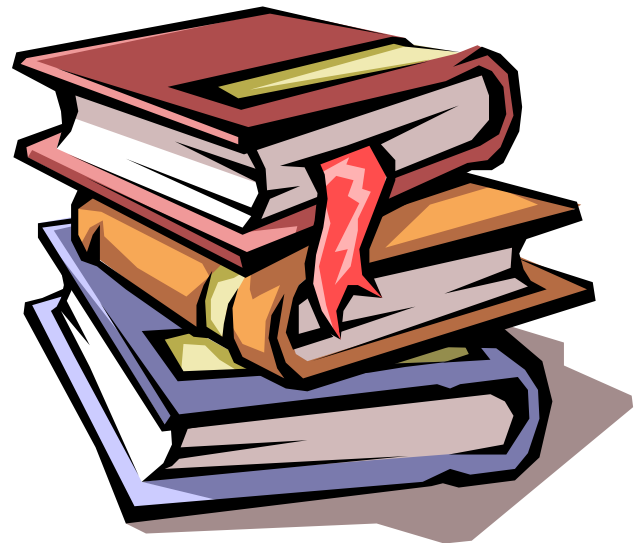


助数詞

❖ For counting, Japanese uses classifiers (or sometimes called counters):

❖ 歳: 年齢の助数詞

❖ 冊: 綴じられたものを数える助数詞
(本・雑誌・ノート)



助数詞

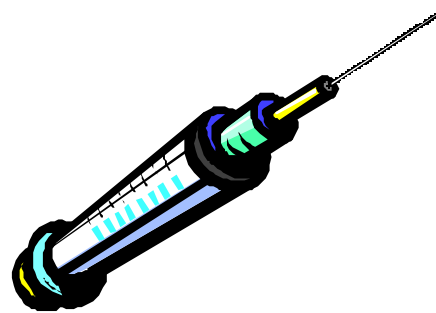
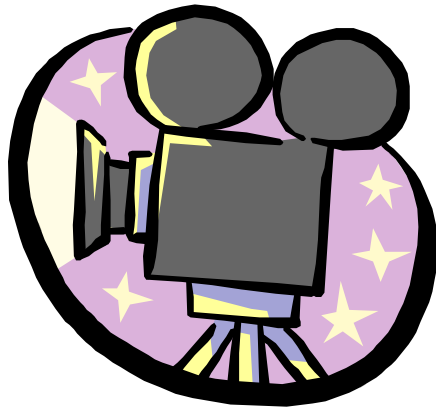
❖ For counting, Japanese uses classifiers (or sometimes called counters):

❖ 時: 時間の助数詞

❖ ページ: ~ページ

❖ 杯: コップ・グラス・バケツなどに入った液体

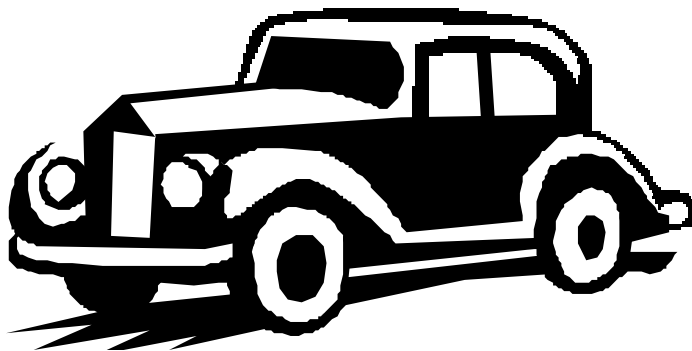
❖ 本: 細長いものを数える助数詞
(木・タバコ・ペン・テレビ番組・映画・注射等)



助数詞

❖ For counting, Japanese uses classifiers (or sometimes called counters):

❖ 台: 機械を数える助数詞
(クルマ・コンピューター)





For our air
(or something)



Classifiers
):



助数詞

❖ For counting, Japanese uses classifiers (or sometimes called counters):

- ❖ 匹: 動物を数える助数詞
(サル・イヌ・ネコ・ネズミ・カエル)
- ❖ 隻: 船を数える助数詞
- ❖ 着: 衣類を数える助数詞 (スーツ・ドレス)
- ❖ 丁: ハンドルのついたものを数える助数詞
(ピストル・銃)



助数詞

❖ For counting, Japanese uses classifiers (or sometimes called counters):

❖ 羽: 鳥を数える助数詞 (トリ・ウサギ)



助数詞

	numeration	- hon		- dai
1	いち	いっぽん ←		いちだい
2	に	にほん		にだい
3	さん	さんぽん ←		さんだい
4	し(よん)	しほん(よんほん)		よんだい
5	ご	ごほん		ごだい
6	ろく	ろっぽん ←		ろくだい
7	しち(なな)	しちほん(ななほん)		しちだい(ななだい)
8	はち	はちほん(はっぽん)		はちだい
9	きゅう	きゅうほん		きゅうだい
10	じゅう	じゅうぽん ←		じゅうだい
100	ひゃく	ひゃっぽん ←		ひゃくだい
1000	せん	せんぽん ←		せんだい

助数詞

イメージ・スキーマとは人間が外部世界を理解するために具体的な経験を基盤として形成する認知図式

本カテゴリー ← 知識の体系

❖ 長くて細いものの助数詞としての本がプロトタイプ(イメージ・スキーマ): (棒／鉛筆／ろうそく／木／ロープ／髪)

❖ 剣(長くて細いもの)を使う武術

❖ 長くて細いものを使わない武術
柔道

プロトタイプ(核:core)



周辺:periphery

助数詞

イメージ・スキーマとは人間が外部世界を理解するために具体的な経験を基盤として形成する認知図式

知識の体系



- ❖ 剣(長くて細いもの)を使う武術
- ❖ 長くて細いものを使わない武術
柔道

プロトタイプ(核:core)



周辺:periphery

助数詞



❖ 長くて細いものの助数詞としての本がプロトタイプ(イメージ・スキーマ): (棒／鉛筆／ろうそく／木／ロープ／髪)

❖ 野球のヒット・ホームラン／ピッチング／バレーボールのスパイク・サーブ／サッカーのゴール／バスケットボールのシュート／卓球のラリー／テニスのサーブ

助数



- ❖ 長くて細いものの助数詞としての本がプロトタイプ(イメージ・スキーマ): (棒／鉛筆／ろうそく／木／ロープ／髪)

軌道のスキーマ

- ❖ 野球のヒット・ホームラン／ピッチング
バレーボールのスパイク・サーブ／サッカーのゴール
バスケットボールのシュート／卓球のラリー／
テニスのサーブ



助数詞

❖ 長くて細いものの助
タイプ(イメージ・ス
うそく／木／ロープ



❖ 警策(座禅のときに和尚さんが後ろから叩く棒)

❖ テープ

❖ 電話



電波?

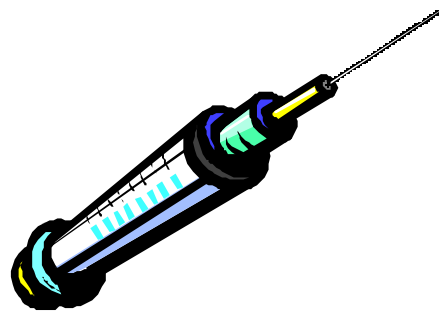
助数詞

❖ 長くて細いものの助数詞としての本がプロトタイプ(イメージ・スキーマ): (棒／鉛筆／ろうそく／木／ロープ／髪)

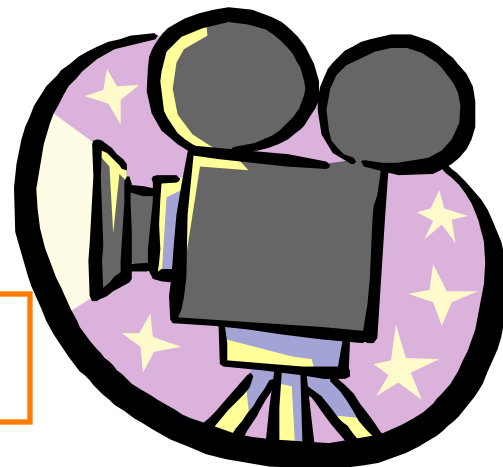
❖ 注射器

❖ 映画

❖ テレビ番組



電波



助数詞



❖ 長くて細いものの助数詞としての本がプロトタイプ(イメージ・スキーマ): (棒／鉛筆／ろうそく／木／ロープ／髪)

❖ 手紙

❖ 「通信手段」(プロトタイプ)

❖ 江戸時代以前の手紙は、毛筆で書いたのでかさばり、細長く丸めるか、たたんだりして和紙で包んだ。

- 明治時代になって封筒ができて江戸時代の呼び方を引き継いで本という助数詞を使用した。つまり、形状が変わっても「通信手段」で、「通信手段」は本で数える。
- 明治時代にできた電報(1869年 東京・横浜間)も「通信手段」なので、やはり本を使って数えた。
- その後に登場した電話(1890年 東京・横浜で電話サービス開始)も、「通信手段」なので本を使って数えた。
- だから、今後も「通信手段」に本という助数詞を使用し続けると予測できる？

- 「こんにちわ」が誤用で「こんにちは」が正用だと認識されるのと同じ？
- 「やむおえない」が誤用で「やむをえない」が正用であると似ている？

- いったんプロトタイプが出来上がると、拡張されてゆく？
- 手触り・歯触り → 耳ざわり？(耳障り) → 耳ざわりの良い音楽(?)

助数詞



■ 年齢を数えるコ

- DAIGO「姉(影木栄貴)は、ちょっと、年齢未公表なんですけど、オレの7コ上です。」(『さんまのまんま』)
- サエコ「(ほしのあき)は10コ上です。」
- 香取「10コ離れてても」(『SMAP×SMAP』)

助数詞

■ 年齢を数えるコ

■ 『おひとりさま』 TBS系列 2009年10月16日～12月18日

■ 秋山里美: 「だって10コも歳ちがうんですよ。それに10コも下なのよ。」

■ 青木ちひろ: 「いっそ12コ下なら、干支の話でもして盛り上がったのにな。」

■ ほかの先生: 「秋山先生は10歳も違うから範囲外ですけど。」
(第1話)

■ 秋山里美: (母親に)「まさか、10コも下なのよ。」

■ 原田博之(真一の大学時代からの友人):
「10コくらい離れててもいいんじゃないか。」(第6話)

■ 秋山里美: 「きっと10コも年上だったら頼りがいのある姉さんって感じだしね」(第8話)